

2019年度全社協 国研修 前期共通レジュメ

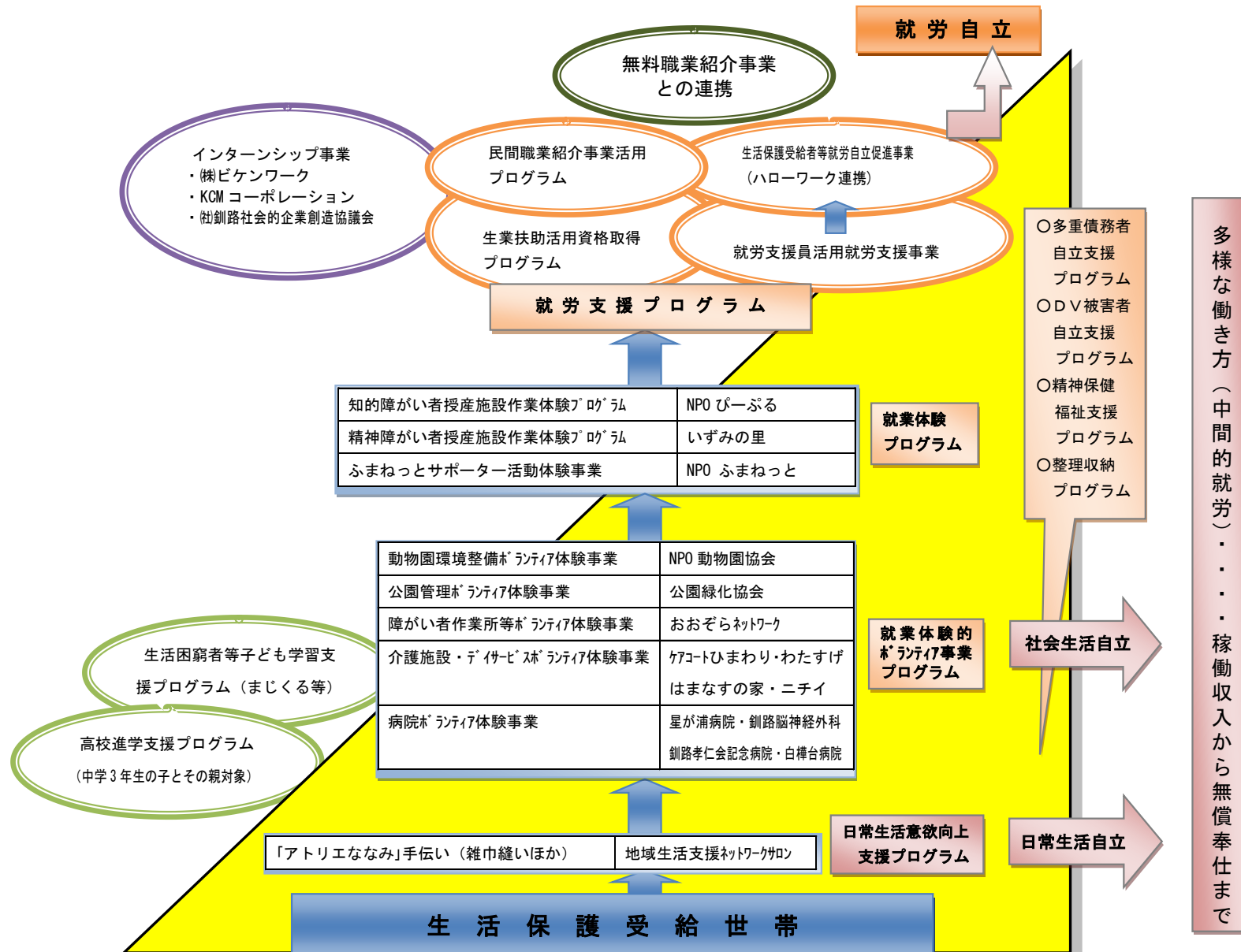
『講義と演習④』

生活困窮者支援を通じた地域づくり

(一社)釧路社会的企業創造協議会 櫛部武俊

生活保護自立支援プログラム釧路モデル

釧路市生活保護自立支援プログラム全体概況（H30年4月現在）



【支援】
ケースワーカー・
民生委員・パーソ
ナルサポーター
など

【支援】
地域・事業所・
関係機関
など

社会生活自立



かけがえのない私と
居場所づくり

就労自立



日常生活自立



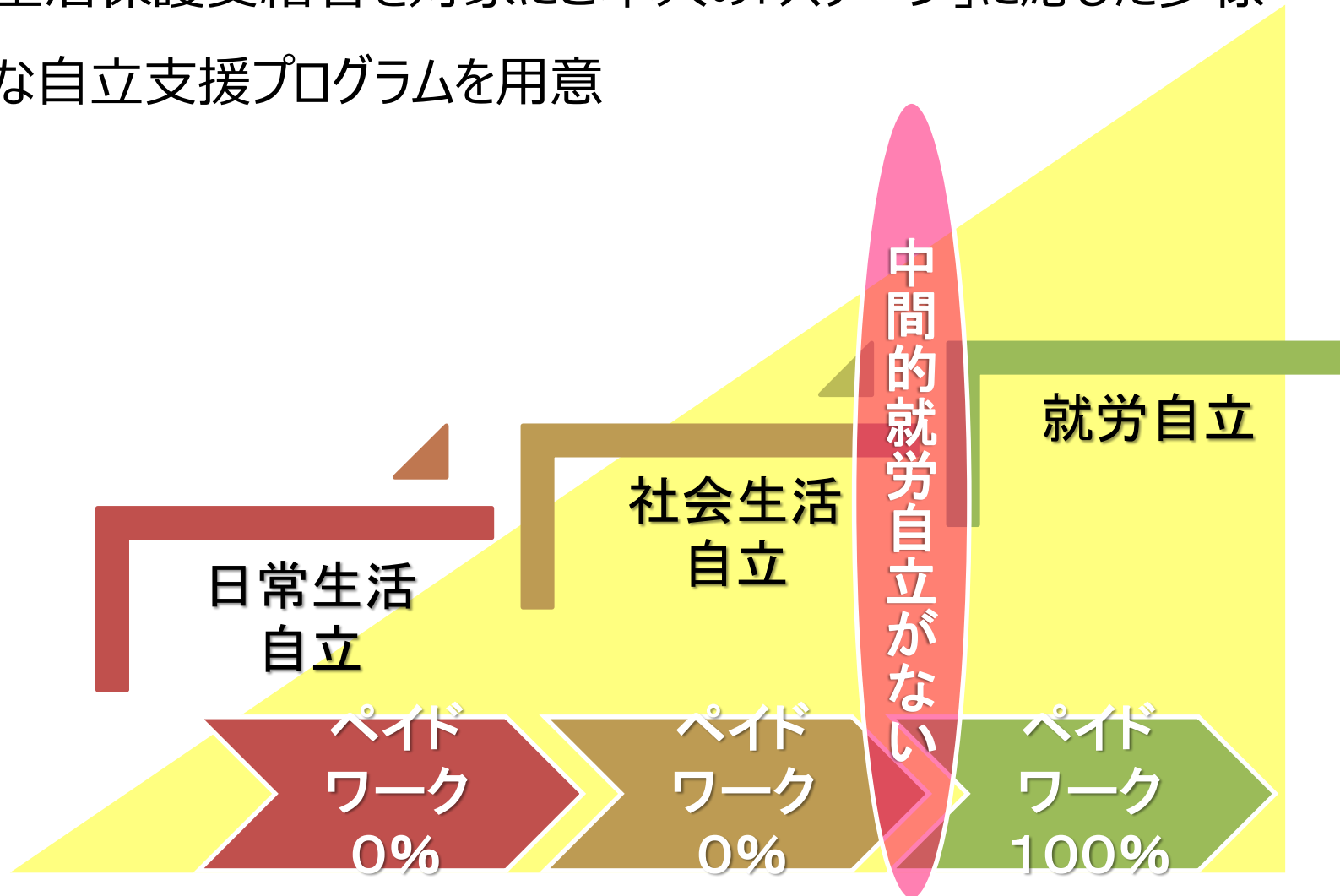
新しいケアの試み

沿革

年度	内容
平成 1 6 年	釧路市生活福祉事務所が、母子世帯の母親を対象にした自立支援に取り組み、「自立支援プログラム釧路モデル」がスタート。
平成 2 4 年	一般社団法人釧路社会的企業創造協議会を設立し、釧路市より緊急雇用創出推進事業を受託。「社会的居場所づくりと連動した雇用の創出研究事業」を実施する。
平成 2 5 年	緊急雇用推進事業で創出された事業を実施するため、釧路市より「就労移行型インターンシップ事業（整網作業）」を受託。合わせて、釧路市と北海道より「自立相談支援事業」のモデル事業も受託した。また、厚生労働省・社会福祉推進事業「生活困窮者等への中間的就労（非雇用型）の場のモデル創出事業」も実施。
平成 2 6 年	引き続き、釧路市より「就労移行型インターンシップ事業」、釧路市・北海道より「自立相談支援事業（モデル事業）」を受託。さらに「就労準備支援事業（モデル事業）」も受託した。
平成 2 7 年	生活困窮者自立支援制度として、釧路市より「就労移行型インターンシップ事業（被受給者就労準備支援事業）」・「就労準備支援事業」、釧路市・北海道より「自立相談支援事業」を受託。

釧路モデルの分析

ただちに就労困難、あるいはケースワークだけでは就労困難な生活保護受給者を対象にご本人の「ステージ」に応じた多様な自立支援プログラムを用意





漁網の仕立て作業等



生活で経済的余裕が魚生産者の多様化に向けた第一歩になると作網を目指す銚路市事業に意を込めた。

ネットは球技で使用するベースと共用の遊の取組場所向けの漁具を取り付け、31日は市から生活保護受給者向け企業に委託した銚路市の企業と業協協議会が市内の

◀ 体育館内に設置するネットを加工する就労支援事業への参加者ら

自立の道広げる体育館ネット

釧路市の生活保護者支援事業 **漁網以外の製作は初**

ブルに約した作業（ペー
ス）に、数10分集合ハ
ンギングして、長さ約16分、幅約3
メートルのネット、2枚
の既製のネットを、こ
ろごしらえして合さす
イデハ、説明新しに

協議会は、担手ハ
が不足している農作
者に、本年度から依
頼的に取り組んでい
る参加者を高く評価
ながら収入を確保し
ておくと、発注決定
したわけを受け、と順
待する。

MOOの避難施設設
立準備は、2011年
体育館は、2011年
に廃止された屋内フ
ットボール場を改修し、4月開校
にオープンする見通

(木津台学)

創設 た折れ
に使用
に使用
自立を
に計1
ツシガ
するを

カ

地場産カラマツ材と漁網を使ったパイプ
イスの試作品。座面の網張りには生活保護
受給者の自立支援事業として行っている

カラマツ材と漁網でイス

[illegible]

釧路市が開発

座面張りは生活保護自立支援事業

150脚 MOO多目的アリーナに

[illegible]

地域で支えられていた人が 支える人に回る仕組みを構築

生活困窮者支援を通じた地域づくり

- 漁業は、釧路市・厚岸町の基幹産業であるが、その下支えをしている漁網業界の現場（整網作業）で高齢化が進み、担い手不足により業界の存続が危惧されている。
- 整網作業は、機械化するのが困難であり、今後も手作業に頼るしかないのが現状である。
- 新たな担い手が生まれない大きな要因は、作業の習熟度が上がらないと、一定の収入が得られないことにある。
- そこで、本協議会の取り組む中間的就労自立の場として、整網作業に取り組み、同時に問題解決を図るのが狙いである。

困ったときは… **生活相談支援センター**

『**くらしごと**』へ **まずはお電話を！**

☎0154-65-1250

地域の中にはいろいろな
解決方法があります。

相談あいてが
いない
仕事がない 生活が
家族のことで… 苦しい



釧路市・釧路管内生活相談支援センター

くらしごと
暮らし×仕事

安心した
暮らしへ

相談・支援はすべて無料です。個人情報など秘密は厳守します。

まずはご相談ください。
ご本人と一緒に解決方法を考えます。

こんなこと相談してもいいのかなぁ～と思っても…気軽に電話してください。

★ 詳しくは、裏面をご覧ください。★



お金



仕事



生活・健康

あなたの
 悩みが必要です。
 助けを求めるその手は、
 誰かを支える手にもなります。



身近な人に
 相談しづらい様々な
 悩み・不安を
 「くらしごと」へ
 ご相談ください

はたらく場所を探す人。
 はたらく手が足りない人。

安全な暮らしを送れない人。
 安全な暮らしを分かち合いたい人。

みんなが抱えている
 悩みや不安を減らすために、
 あなたの相談を、
 お待ちしています。



悩みや
 不安の解消へ

「くらしごと」は不安を
 解決するための伴走者です。

共に考え専門家にも相談

くらしごと

専門家
 地域パートナー

解決に向けて
 寄り添い、考えます

釧路市・釧路管内生活相談支援センター くらしごと

【委託者】釧路市・北海道 【受託者】一般社団法人釧路社会的企業創造協議会
 〒085-0015 北海道釧路市北大通12丁目1-14 ビケンワークビル1階

【開設時間】 平日9:00～18:00

【ホームページ】 <http://www.sbcc946.com/> 【E-mail】 sbcc@kuh.biglobe.ne.jp

あなたとの約束を守ります。(個人情報や秘密、プライバシーなど)

ご相談・支援は全て無料 TEL.0154-65-1250

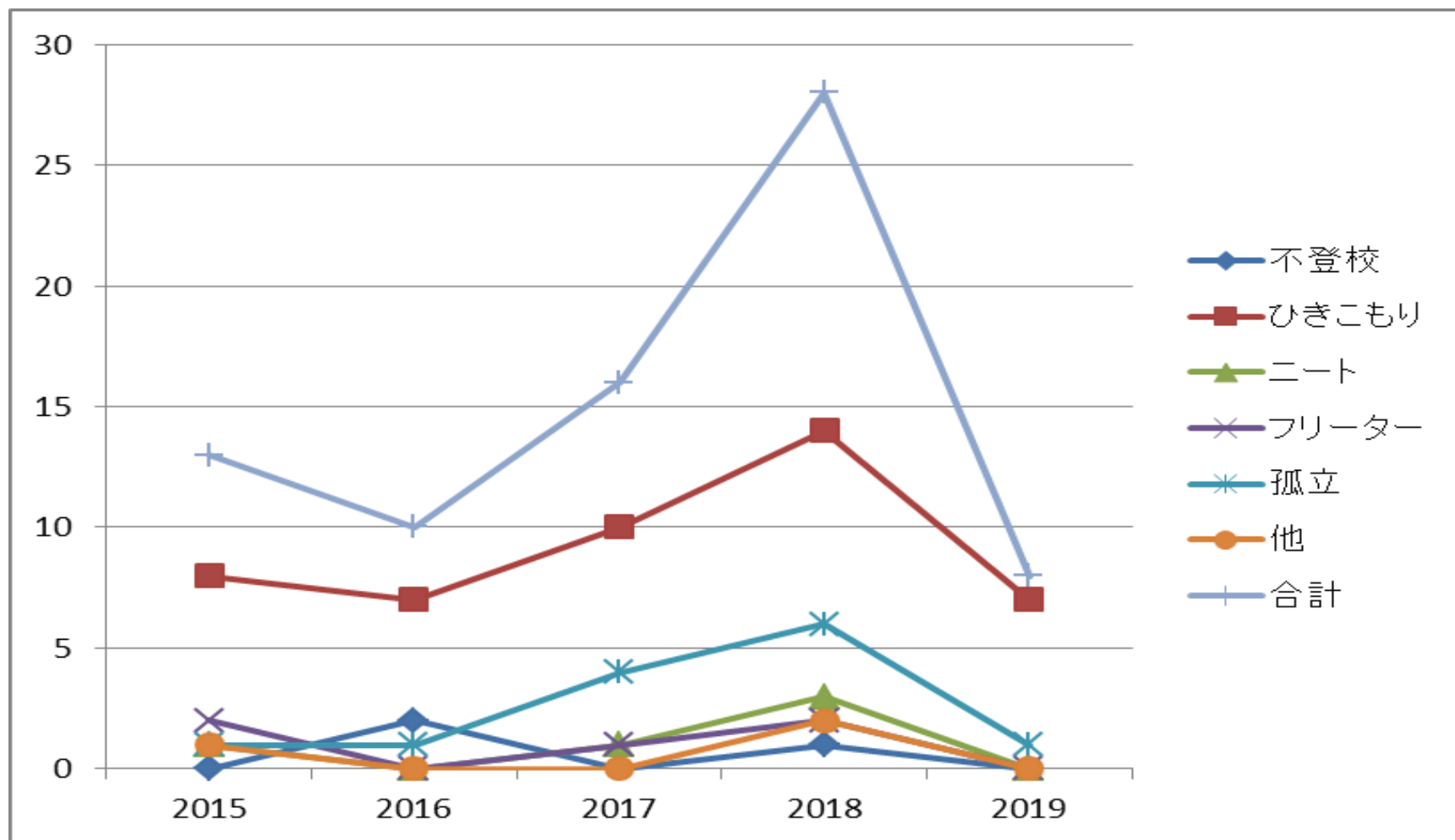
【釧路駅】 ●バスターミナル

●ホテルクラウンパレス釧路
 ●コンフォートホテル様

「くらしごと」はビケンワークビルの
 1階にあります。水色のビルが目印です。

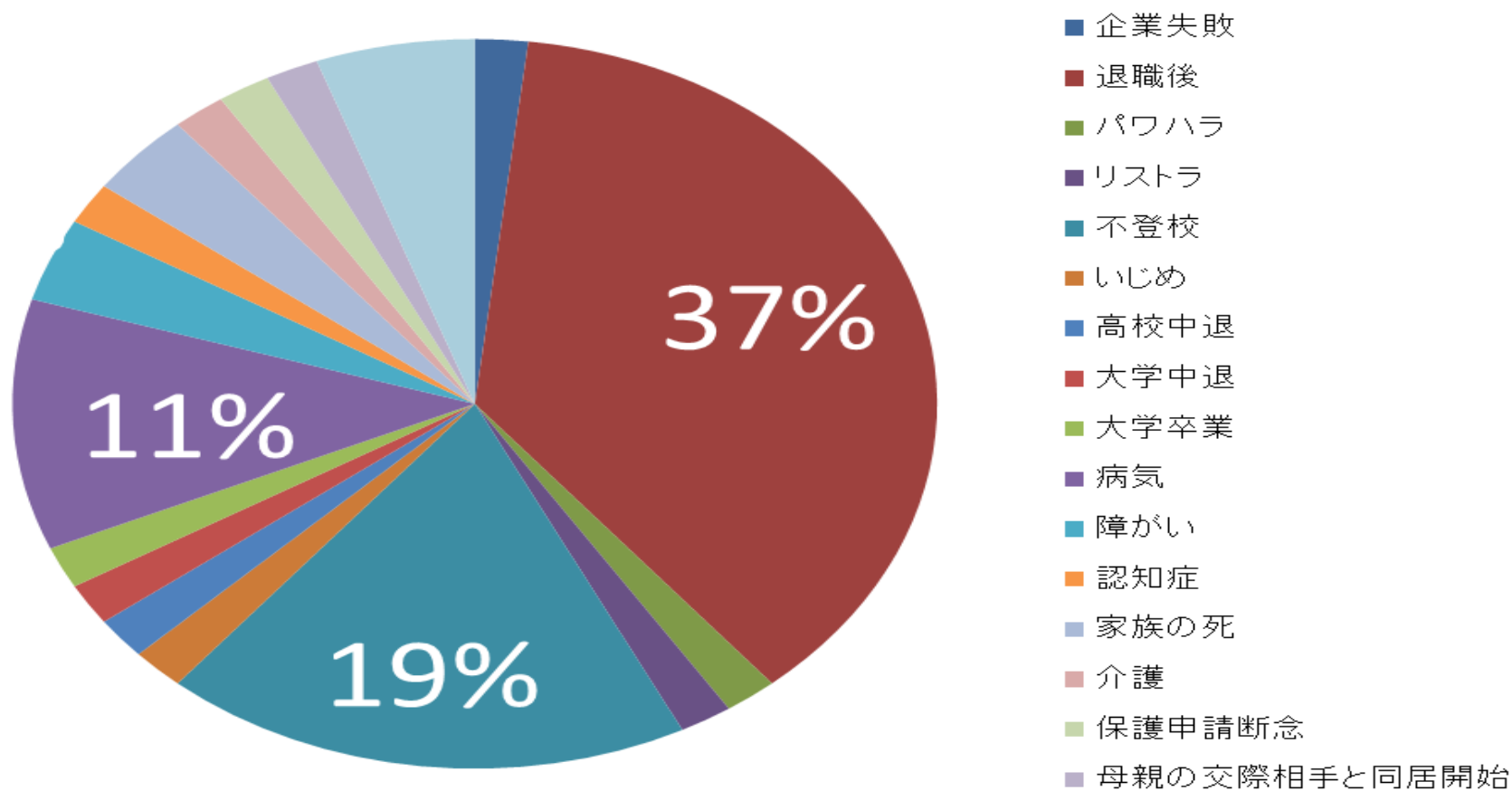


地域のホットスポット（釧路市）



労働・教育（学校）・疾病と孤立

不登校・ひきこもり・ニートのきっかけ内訳



なんでもやってみるラボ（通称PC講座）







漁網の整網作業



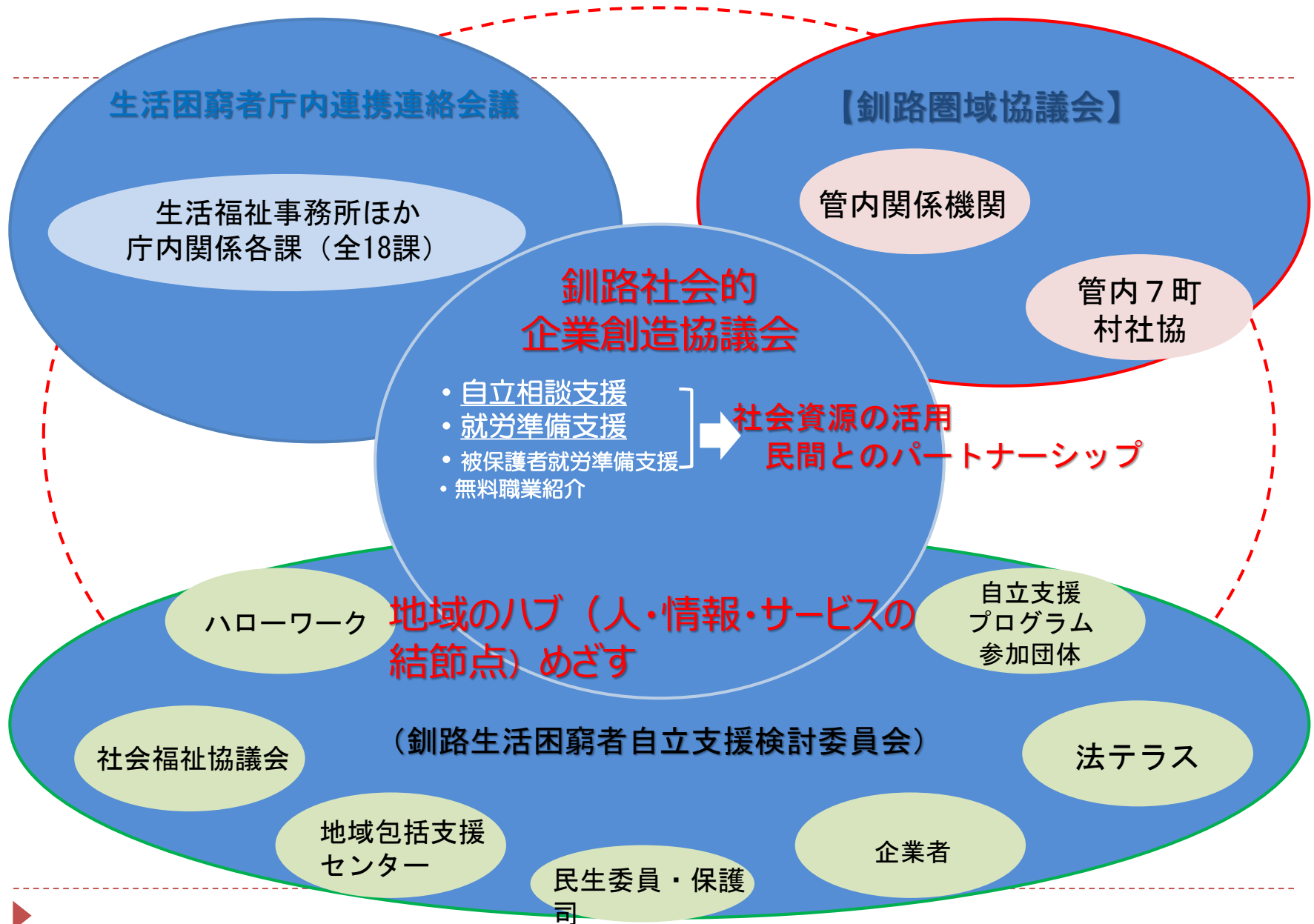
釧路市指定ごみ袋の封入作業



見学・体験

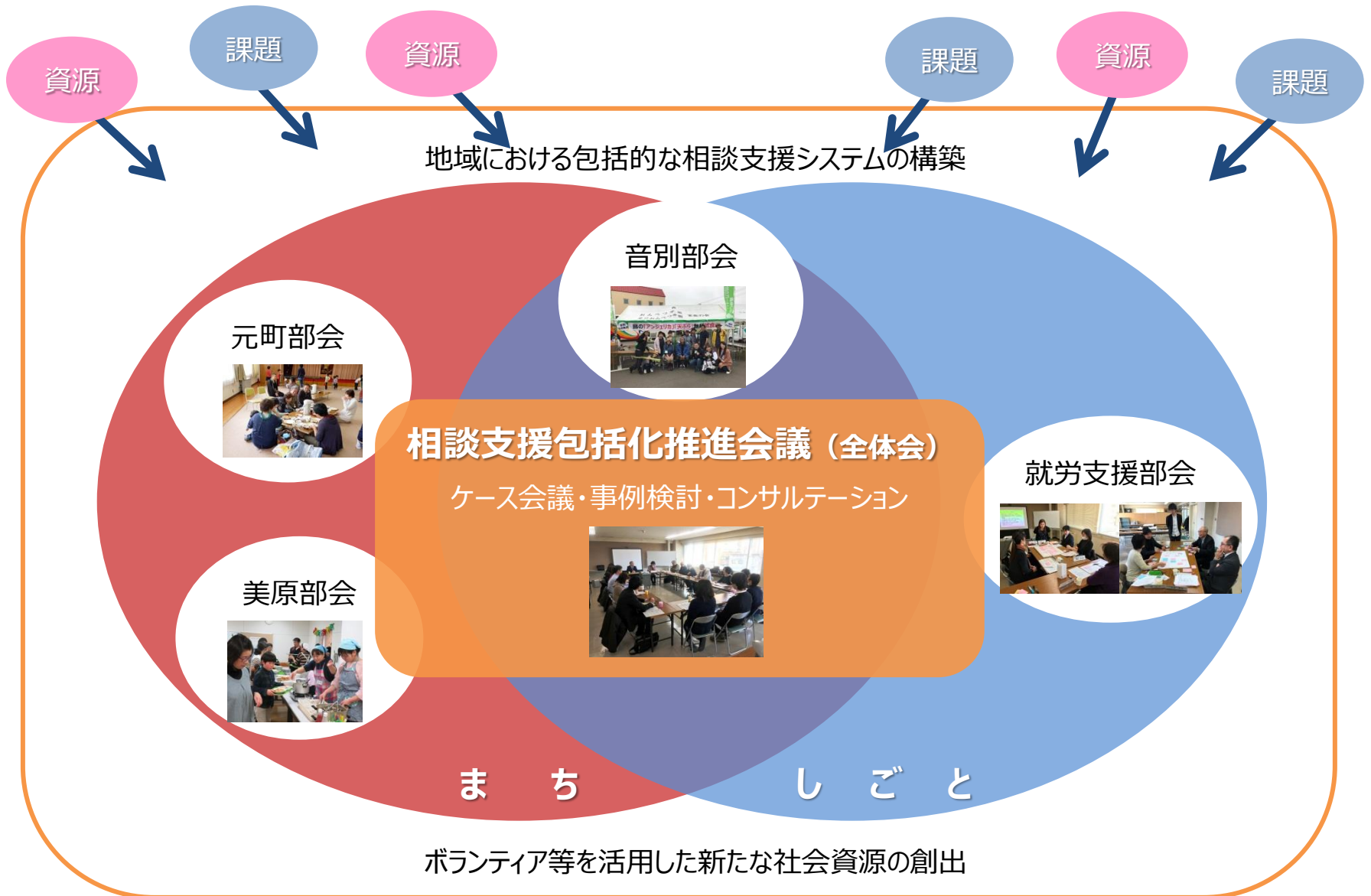


パートナーシップ



包括的な相談支援システム構築事業について

以下のような具体的な試みを通じて、協働による包括的支援体制を構築する。





みはらかがやき食堂



みはらかがやき食堂



お寺食堂



お寺食堂



就労支援部会



就労支援部会



音別ふき路団

生産

路の栽培を通した
地域の様々な人が交流する場
多様な働き方が可能な場づくり



ビジョンの実現
「路で音別の町が有名になり、
老若男女いきいきと暮らせる」

加工

地域の民間企業（美警）

- ・加工工場の稼働による商品加工
- ・路の加工商品開発

労働力・支援員の派遣

事務
調整

（一社）釧路社会的企業創造協議会

- ・事務局機能
- ・生活困窮者自立支援充実
- ・社会復帰促進事業の効果向上
- ・料理レシピの開発

労働

おんべつ学園

- ・労務の提供
- ・障害者支援の充実
- ・地域住民との交流支援

労働力
せっせ

- ・支援相談員の派遣（作業の見守り）
- ・若者と高齢者の接点づくりの推進期間
- ・困りごと解決からの「つながり」づくり

全体コーディネート・ 技術・ノウハウサポート

コーデ
ィネート

行政（釧路市）

- ・地域課題の解決
- ・地域おこし協力地等支援
- ・加工品の販路開拓支援

経営
支援

大地みらい信金

- ・新規開拓支援
- ・コミュニティ再生ノウハウ吸収
- ・根釧地域への波及、活性化
- ・賃金需要創出

販促
支援

CLAPS creative
東京の関係人口

- ・マーケティング支援
- ・ブランディング支援
- ・ファシリテーション







三つの支援と中間的就労

- ▶ (1) 個別性・課題解決、マイナスをゼロにすることから
⇒当事者が自律的に生きることに寄り添う、つながる
- ▶ (2) 組織性・制度が人を疎外する。申請主義の限界。
⇒制度横断的な繋がり、協議体の確立等
- ▶ (3) 地域性・社会は排除と孤立化が進んでいる
⇒助けてと言える社会、互酬関係⇒共感関係
- ▶ ※コミュニティディベロプメント、コミュニティーオーガニゼーション、ソーシャルアクションが消えて、ソーシャルワークのみ残った。いま相談センターも受託組織も行政もこの視点に立たつことが大事。社会は信用に足るものなのか。。
- ▶ ※中間的就労のすすめ・一般就労と福祉就労の間に位置する働き方のグラデーション。自尊心・自己肯定感・尊厳が貫かれる関係づくり。人を支えることが地域も支える。

追加・・平成30年度厚生労働白書から7月9日公表

平成30年版

厚生労働白書

(平成29年度厚生労働行政年次報告)

―障害や病気などに向き合い、全ての人が活躍できる社会に―

〔概要〕

厚生労働省

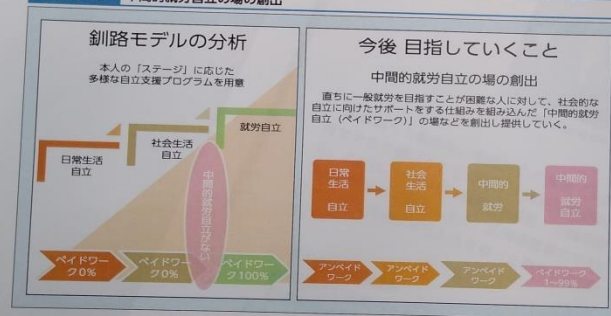
第1部 障害や病気などに向き合い、全ての人が活躍できる社会に

2 中間的就労自立の考え方

釧路社会的企業創造協議会（以下「協議会」という。）は、北海道釧路総合振興局と釧路市から委託を受けて自立相談支援事業や就労準備支援事業などを実施する一般社団法人である。協議会は、生活保護受給者だけでなく生活困窮者を含む雇用創出を目的として、2012（平成24）年に設立された。

協議会は、発足時に、これまでの「釧路モデル」の検証を行った。検証では、地場産業の停滞により地域の求人情報が少なく、生活保護受給者や生活困窮者の一般就労が困難である状況を踏まえ、資金の多寡だけで見ず、地域社会のニーズを掘り起こしていくことが重要とされた。そして、自立支援プログラムにより、「社会生活自立（0%のペイドワーク）」から「就労自立（100%のペイドワーク）」にすぐ移行するのは難しいことから、「就労自立」に向けた「中間的就労自立（1～99%のペイドワーク）」の場を、地域のニーズに沿いながら提供することが必要とされた（図表3-1-9）。

図表3-1-9 中間的就労自立の場の創出



3 中間的就労自立の取組み

中間的就労自立の取組みとしては、漁網の整備作業や、健康づくり運動「ふまねっと」に使用するネットの製作などがある。

漁網の整備は、釧路管内の基幹産業たる水産業からの需要があり、漁網業界が高齢化による担い手不足であったことから、生活困窮者と漁網業界双方が抱える課題を同時に解決するために行うこととした。

作業内容については、指示書に則り、網にアバ棚（浮き付ロープ）と下棚（重りとなる鉛入りのロープ）をアバリという専用の道具を使用して括り付ける仕立て作業が中心である。新規の参加者は、まずは参加者の中でリーダー的な役目を果たす「ボランティアリーダー」や、作業に慣れている参加者から作業工程を教わり、練習用の網で訓練する。そし

第3章

障害や病気をもつ者などに対する環境の取組み事例

から、本番の作業から出来るかという信頼を得るま



られる50センチ網を製造する。動機が展開され、申し出たことか一定の需要が見

とから、開始されて協議会が作業の切り手すり・ド

利、居住